

戦時下における「動員」「人の資源化」の考察 —戦時厚生事業期の軍事援護を中心とした地域末端組織の実態研究—

宮浦 崇

本稿は、1930年代前半から1945年の敗戦までの期間に、戦時厚生事業の一環として行われた軍事援護事業の実施過程を考察する歴史研究であり、同時に、当時の動員政策に関する政策過程研究である。軍事援護事業の農山村地域での具体的展開を追い、それらが国策として実施されるなかでの理論的背景について考察する。あわせて当該期の国家による軍事援護政策と、地域における援護の実態を検証することを通して、戦時下における国家と地域社会の対抗関係を一定浮彫りにすることを目的としている。従前の社会事業に比べ制度的、量的にも拡大し、社会政策における救済や救援の国家的展開の本格化という、転換期にあったこれらの諸事業が、この時期にどのような意味を持ったのか、事業の実施者、受け手、そして地域社会の反応はどのようなものであったのか。本稿では当時の史料、関連政策の展開等を追いつつ、特に地域の実状について詳細な検討を行った。

本稿では主な素材として農山村地域の一次史料を用い、そこで実施された諸事業を抽出し、事業の性格・役割の変容を見ながら、当時の一地域の実態を明らかにしていく地域史的視点をもつ。該当地域における軍事援護事業が実施されていくにあたって、その理論的背景に、相互扶助の概念としての「隣保相扶」、および近代日本における人の資源化、いわゆる「人的資源」という二つの要素の存在を指摘する。

第1章において、軍事援護事業に関係する組織、団体、関係法規等、本稿の前提となる諸々について、先行研究に依拠しながら整理した後、第2章において軍事保護院事務官青木大吾による『軍事援護の理論と実践』等を引き、軍事援護の理念として精神論的な「隣保相扶」に依拠する国家の体質と、それに対して批判的な見解を述べる在野の主張を対比させ、当時の軍事援護の実施における問題点について検討した。また、国家が地域社会に期待した機能というものは「自治自営」にもとづく相互扶助と、そして共同体内の結合を高めることによる地域共同体の強化であった点を指摘し、国家による民衆の所属意識の再編と新しい公的空間の定着、強化を図ろうとする理論的背景について考察を加えた。

第3章では、具体的に農山村地域である東京都西多摩郡小曾木村の一次史料にもとづき、地域における援護活動の実状について明らかにしていく。該当地域の地域軍事援護団体の成立過程と、成立後の援護活動の実際について、銃後奉公会、および村部落会の活動を中心に追う。ここでは実施状況報告書等から援護活動を抽出し、それらを「救済給付型」、「銃後動員型」として類型を試みた。前者は金銭の給付等による生活改善、経済的保護が目的であり、給付内容が「実利的」なもの、すなわち社会改善・社会改良を目的とする従来社会事業に近い性格を備える。他方後者は「銃後社会への動員」をすることが目的であり、金銭の給付を伴う項目であっても象徴的間接的費用となり、国家体制維持のための「動員」的要素を持つものであった。そして、該当地域での援護活動が次第に前者から後者へと移りゆく傾向について指摘する。

第4章においては、1930年代に入り注目され、国家の動員政策にも大きな影響を与えた「人的資源」論について、日本における資源政策の中心人物である松井春生らの著作を引きながら検討を行った。当時の人的資源論に、量的要素と質的要素を認め、当時の資源創出への具体的対処において、その重要性が増したのは質的、特に精神論的な要素であったことが明らかになる。戦時末期、

国家が様々な政策を打ち出す中で意図したことは、計画のもとで全てにわたって統括し、地域末端のすみずみから、資源回収し、管理することにあった。地域における社会事業が、「人的資源」という概念の適用によって、従来「積極的」であった存在意義が積極的、建設的なものとへと認識されたことを史料に見る。

第5章では、ここまで論じてきた国家の意図した仕組、理念の浸透が民衆に及ばなかった実状を垣間見ることができる事例について検討を加える。具体的には当時の言動調査、委員会速記録などの史料に基づき、国家が意図した「隣保相扶」の情誼に基づいた軍事援護は、当時その限界が露呈していたことを明らかにする。多くの市区町村で、その市区町村単位でつくられた軍事援護団体の中枢と位置づけられた銃後奉公会は、「組織」としてではなく「機能」として捉えられていた可能性を指摘する。そして、銃後奉公会に対して、国家が「組織」として整備することに固執しつづけたことが、銃後奉公会体制の最大の問題点であったと結論づける。

最後に、各章にて得られた知見をまとめ、今後、戦後の社会福祉政策への転換をも視野に入れた該当時期の社会事業研究の必要性を述べ本稿を締めくくる。